



食物アレルギーを持つ子どもたちにも 安全でおいしい学校給食を



ある特定の食物を食べると体に有害な症状を引き起こしてしまう「食物アレルギー」。今回は、食物アレルギーを持つ子どもたちにも、安全でおいしい学校給食を届けるための取り組みについてご紹介します。

【問い合わせ】学校教育課学校教育担当(☎282-1711 内線1413)



学校給食での食物アレルギーの対応方針が変わります

村内で食物アレルギーを有する児童生徒は年々増加しており、その割合は、全体の約2.7パーセントになります。また、アレルギー症状には「ごく微量でも反応する」「少量では反応しない」「加熱すれば食べられる」など、さまざまなケースがあるため、各学校では非常に複雑な個別対応を行っている状況です。そこで村では、「食物アレルギー対策検討委員会」(アレルギーの専門医、校長、教頭、栄養教諭、養護教諭、保護者の代表者等で構成)を立ち上げ、給食現場の状況や課題等について協議しました。その結果を踏まえ、子どもたちに給食を提供するに当たり「最優先すべきは安全性の確保」という考えのもと、国(文部科学省)の指針に基づき、令和5年度から村全体で統一した対応を実施していきます。



令和5年度から安全性確保のため、原因食物の完全除去対応(提供するかしないか)を原則とします

現在、村の学校給食では「完全除去」「少量可」「加工食品可」「牛乳を利用した料理可」「飲用牛乳のみ停止」など、さまざまな対応をしています。これらを行っていると、調理や提供業務が複雑となり、事故の危険性も高まってしまいます。

そのため、令和5年度からは「原因食物が含まれる料理等の完全除去」または「他の児童と同じ料理等を提供する」の二者択一の対応にすることとしました。今後とも、保護者と学校および教育委員会が緊密に連絡を取り合いながら、安全でおいしい学校給食の提供に努めていきますので、ご理解をお願いします。

詳細は、東海村学校給食アレルギーマニュアル(令和4年12月改定版)をご覧ください。





多くの人食べられる「共通献立の日」

令和4年11月29日、「学校給食食物アレルギー対応事業」の一環として、より多くの人食べられる「共通献立の日」を実施しました。これは、食物アレルギーに対する普及啓発活動と理解促進を図ることを目的としており、この日は村内の全小中学校で、食物アレルギーの原因となる主要な食品を除いた給食が提供されました。より多くの子どもたちに安全でおいしい給食を提供できるように、2月にも第2回目の実施を予定しています。



【校長による検食の様子】

当日の給食を紹介します！



献立▼▽ご飯 ▼チキンカレー ▼根菜サラダ ▼みかんゼリー

保護者や児童生徒の声



保護者

毎日お弁当を持参しているので、このような機会があると大変助かります。

みんなで同じ給食が食べられてうれしかったです。



児童生徒

このほか、好評の声が多数寄せられました♪

食物アレルギーは、食べれば治る？

村立東海病院 医学博士 山口公一

食物アレルギーとは、ある特定の食物を食べると体に有害な症状(アレルギー症状)が出てしまう病気です。アレルギーを起こす物質をアレルゲンと呼びますが、食物以外に家のほこりやダニ、スギ花粉などさまざまなものがあります。

このアレルゲンを少量ずつ体内に取り入れ、抵抗力を付けてアレルギーが起きないようにする治療法を「アレルゲン免疫療法」といいます。この治療法は、気管支喘息や花粉症などのアレルギー疾患において、100年以上前から皮下注射法などのさまざまな方法で試みられてきました。

食物アレルギーにおいては、アレルゲンとなる食物を少しずつ食べていく「経口免疫療法」と呼ばれるアレルゲン免疫療法があります。最近ではあちこちで行われており、中には「食べなきゃ

治らない」とまで言う人がいるくらい普及しているようです。しかし、残念ながら、この経口免疫療法はまだ一般的な治療法としては認められていません。

その理由は、アレルゲンを食べている途中にアナフィラキシーなどの強いアレルギー症状が起こる可能性があることや、食べ終わった後にアレルギーが本当に治ったということを確認する確かな方法がまだないからです。また、食べれば全員が治るという保証もありませんし、しばらくは食べ続けなければならないとも言われています。

したがって、食物アレルギーでも、特にアレルゲンを除去していても治る可能性が高い乳幼児期には、食べて治すという経口免疫療法はおすすめしません。とはいえ、アレルゲン免疫療法は、アレルギーを治す唯一の治療法であることは間違いないので、今後、より安全で確かな方法の確立が期待されています。

